

3年ぶり

第53回報知キス釣り選手権・SESSYA CUP」鳥取予選

3年ぶりだ。第一53回報知ギス釣り選手権(SESSYA CUP)鳥取予選が14日、鳥取・弓ヶ浜で62人が参加して行われた。競技時間は午前6時から4時間。釣ったキスの尾数で順位を競い、吉田敏昭選手(チーム磯ノ浦-101)が60尾でトップ。56尾の妹尾泰選手(福山鷗遊会)らシート権保持者を除く上位8人が決勝大会(9月4日、徳島・島北の脇)に進出した。22日に徳島・島北の脇で28日には愛知・堀切でそれぞれ予選が行われる。



The image shows a large-scale fishing competition banner. The main characters are a massive red '吉' (lucky) and a blue '太' (thick). To the left, the text '遠投力でゲットチュウ' (Get a chub with long casting) is written vertically in yellow and red. Below the blue '太' character, the word '敏選手' (Senshi) is written in blue. At the bottom right, the number '60' is written in large red characters. In the bottom left corner, there is a photograph of three men sitting on the ground, each holding a certificate. The man on the left is wearing a black cap with 'SESSYA' and a black jacket with a white 'Daiwa' logo. The man in the middle is wearing a black cap with 'SESSYA' and a dark vest over a light shirt. The man on the right is wearing a white shirt and a dark cap. The background of the banner features a grid pattern with red and white squares.



### ◇鳥取予選の通過者◇

位	選手名	所属クラブ	尾数
吉田 妹尾 喜代美 岡田 村山 田中 吉田 森田	敏昭 泰勢 博郎 信行 隆 義一 弘忠 健治 博也	チーム鶴/浦01 福山/鶴遊会 スイス研/鳥取 キス研/鳥取 G F G 関西 「人」霞/浦01 キス研/大阪/NMF キス研/大阪	60 36 52 47 47 47 47 47

前日からの雨でキスの食いを心配したが、本部前の浜に入った電手の第1投目に釣果が確認され、その心配が払拭（ふっしょく）され

が3年ぶりに開催された。以前と同じように予選は鳥取、徳島、愛知の3会場で開催され、トップを切つて鳥取予選が14日、弓ヶ浜で行われた。

前日からの雨が当日の朝まで続いたが、選手と主催者の願いが通じたのか競技開始のころには暑く暖かく変わってくれた。

選手は、鳥取県はもちろんのこと、西は九州、東は北陸など遠方からの参加者も多く、この選手平均の人口密度の高さがうかがえた。今回の予選では総勢62人のキス釣り爱好者が参加して、本戦進出を目指して釣ったキスの尾数を競い合

▲▲鳥取予選を勝ち抜き、決戦進出を決めた(前列左から)田中、徳永、妹尾、吉田敏昭、後列左から)田、六田、森吉忠弘、村山の各選手。(下)密を避け間隔を空けての検量も、選手たちの視線はキスしまくった。左元)選手たちは思いついでいる。競技時間の長いつづけ

◇鳥取予選の通過者◇			
順位	選手名	所属クラブ	尾数
1	吉田昭博	チーム釣る浦	101
2	吉田敏郎	云雀	60
3	妹尾永水	鰐鮎	59
4	徳信	岡山	58
5	吉田行隆	鳥取	52
6	吉田弘治也	吉田	51
7	吉田健博	福島	49
8	吉田吉三	吉田	47
9	吉田六	吉田	47
10	吉田六	吉田	47

※丸数字はシード権保有者

れた。場所ムラや食い止まりはあるものの釣り場全体で釣果があり、場所によっては20秒前後の自型も交じり、選手はキスのアタリを楽しんでいた。

釣り場の釣果を見て歩くと、釣り開始から1時間半ほどは近投から3、4色（1色は25g）でアタリが続いたが、それからはしばらく食いが落ちた。釣り場全体に小心翼みの不ズミゴチ（ガツチヨ）も多くの飛距離が足りないと不ズミゴチの餌食となり、ある程度、遠投してもキスと不ズミゴチが交じることが多かった。速くリーリングすることでかわすことはできるが、それではキスが食わないといふジレンマもあった。

それから抜け出したのはやはり6つ色を投げられる遠投力だ。

予選1位通過した吉田敏昭選手は、6色ほど投げて5色に入ったところ（約140g）でアタリを捉えて栄冠を勝ち取った。

今回の鳥取会場がつづき、7立



● 鮎は20センチ前後の良型  
もよく、キス独特のアタリを楽しむだ

● 鮎は20センチ前後の良型  
が多く、キス独特のアタリを楽しむだ